

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (米ドル)	日本円	備考
授業料	7,110	957,450 円	11 単位分の金額。
宿舍費	5,445	760,364 円	ダブルルームの利用額(753,132 円)及び Application fee \$ 50(7,232 円)の合計金額。留学期間中の寮内の食費(朝食、昼食、夕食)が含まれている。
食費	580	81,189 円	宿舍以外で、友人とレストラン等に行った際に発生した飲食費用。サマーセッション終了後に 4 日間パークレーに滞在したことで発生した食費(14,668 円)を含む点に留意。\$1=140 円で現地通貨を算出。
図書費	-	-円	指定教科書が学校内のオンライン図書館サービス (https://www.lib.berkeley.edu/) で閲覧可能な授業、または指定教科書がない授業を受講していたため、図書費は発生していない。
学用品費	-	-円	筆記用具等は日本より持参したため、学用品費は発生していない。
携帯・インターネット費	68	9,480 円	ジェスロモバイルのSIMカード(三か月)を日本で購入した際に支払った金額。それ以外は大学や寮内のフリーWifiを利用。\$1=140 円で現地通貨を算出。
現地交通費	162	22,680 円	大学が寮の徒歩圏内であったため、通学費は発生していない。また学生の場合、パークレー内のバス利用は無料であるため、本項はパークレー内のバス費用を含んでいない。本項が示す交通費はサンフランシスコやシリコンバレー等へ遊びに行った際に発生した電車代やタクシー代、レンタカー代である。\$1=140 円で日本円を算出。 <input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車
教養娯楽費	293	41,020 円	コンピューター歴史博物館(シリコンバレー)\$15、タホ湖旅行費\$224。ボルダリングジム(パークレー)\$54(\$18×3回)。\$1=140 円で日本円を算出。
被服費	95	13,300 円	Cal Student Store(校内のお土産屋さん)で購入したフード\$55、ゴールデンゲートブリッジウェルカムセンターで購入したフード\$40 の合計金額。\$1=140 円で日本円を算出。
医療費	-	-円	医療機関に行くことがなかったため、医療費は発生していない。
保険費	303	42,435 円	形態: 明治大学指定の保険(大学院生)の金額。送金手数料 165 円含む。\$1=140 円で現地通貨を算出。
渡航旅費	1,713	239,803 円	往路は観光を兼ねている点に留意。成田ーサンノゼ(44,990 円)ーラスベガス(11,490 円)ーロサンゼルス(36,330 円)ーサンフランシスコ(56,130 円)ー成田(50,360 円)。過重荷物代(6,500 円+25,220 円+8,783 円)含む。\$1=140 円で現地通貨を算出。
ビザ申請費	535	74,850 円	VISA 申請費用(22,400 円)、SEVIS 管理費(49,040 円)、パスポート郵送費用(3,410 円)。\$1=140 円で現地通貨を算出。
雑費	248	34,709 円	洗濯代(10,341 円)等の生活必需品等の購入費。\$1=140 円で現地通貨を算出。
その他	25	3,342 円	Cal Student Account を発行する際に発生する登録費用。
その他	502	70,327 円	DeepL 年間登録費(12,000 円)、Otter 年間登録料(11,200 円)。サマーセッション後の 4 日間の宿泊費(47,127 円)。\$1=140 円で現地通貨を算出。
合計	17,079	2,350,949 円	サマーセッション前の自己理由による航空費(121,517 円相当)及びサマーセッション後の 4 日間の宿泊費及び食費(61,795 円)を含む点に留意。

渡航関連

渡航経路	
往路 出発地: 成田国際空港 目的地: サンフランシスコ国際空港 経由地: サンノゼ、ラスベガス、ロサンゼルス	
復路 出発地: サンフランシスコ国際空港 目的地: 成田国際空港 経由地: -	
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: - 料金: -	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: ZIPAIR 等 料金: 180,660 復路 航空会社: ZIPAIR 料金: 59,143 ∴ 合計: 239,803(過重荷物代 40,503 円含む)	
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:)	
<input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名: Trip.com)	
<input type="checkbox"/> その他()	
滞在形態関連	
1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舎など)	
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前: International House)	<input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2) 部屋の形態	
<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 1 人)	
3) 共有部分	
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)	
4) 住居を探した方法:	
明治大学国際連携事務室から連携された資料の中に、住居の例として International House が記載されており、また他の明治大学生も International House を利用する人が多かったため、本住居を選択した。	
5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
<p>■ International House を選ぶメリットは以下 2 点である。</p> <p>(1) 友達が作りやすい点。 International House は、他の寮とは異なり、寮主催のイベントが充実している(3 か月で 10 件程度)他、自分たちでもイベントを企画することができる。また、共有の食堂もあるため(他の寮は提携しているレストラン数か所を自身で選び、食事を取る)、多くの人と話す機会があり、友達が作りやすい。例えば、寮主催のイベントではスカベンジャーハント(パークレー内を探検し、なぞなぞを解くゲーム)やプレスレット作り(ビーズでプレスレットを作成)等を体験し、そのイベントを通じて知り合った友達と時計台に登ったり、スタンフォード大学へ観光に行った。また、寮主催のイベントに限らず、International House では、キッチン(30 名程度収容でき、テレビや大きな机等の設備がある)を借りて、自身でイベントを開催できるため、私は友達と一緒に寿司パーティーを企画した。そこでは友達が知り合いを連れて来てくれたこともあり、新しい友達と出会うことができた。また自身が主催するイベントに限らず、友達が主催するイベントにも参加することで、あまり話したことがなかった人とも友達になることができた。寮内食堂では、寮に住む学生全員が社交的なこともあり、食堂内で気軽に人と話すことができる。そのため、食堂で知り合った友達とサンフランシスコや映画館等に行く他、夕湖に旅行に行くこともあった。但し、交友の機会が多くても、自分からアクションを起こさなければ、友達ができない点には留意。</p> <p>(2) 明治大学生も多く、相談しやすい点。 当初、日本人が多いと日本語を話すため、英語力向上に繋がらないと考えていたが、本留学を通じて同じ日本人である明治大学生に助けられることも多かった。例えば、留学 1 か月後、英語しか使えない環境にストレスを感じていた時期があったが、明治大学生の友達と一緒に食事に行き、自身の悩み等を話し、1 日中日本語を使うことで、ストレス解消になった日があった。また、自身が風邪を引いたときには、明治大学生の友達から風邪薬を分けてもらうこともあった。留学期間 3 か月という長期留学においては、必ず何かしらの悩みが発生すると考えている。その中で、同じ条件で留学をしており、日本語で相談できる仲間がいるという環境は大変貴重だと感じた。もし、自身が悩みを感じた場合、同じ大学の友達に相談することをお勧めする。大抵の場合、他の明治大学生も同じ悩みを抱えている場合も多く、他の人の話が参考になることも多いからである。</p>	

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例: 現地の病院、学内の診療所)

- なし
 あり (治療を受けた場所: 風邪のため、市販薬を利用。治療等は受けていない。)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。
 (例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

- なし
 あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

現地に住むクラスメートや寮友から危険地域情報を聞き、夜中 10 時以降に外出することは避けることで防犯対策をした。盗難等の犯罪に巻き込まれることはなかったが、サンフランシスコのゴールデンゲートパークを訪れた際に、車上荒らしの現場を目撃した。目撃した瞬間、友人と共にその場を離れ、不用意に近づかないよう気を付けた。寮友の中には、レンタカー内にバッグ等を置いていたら、車上荒らしに遭い、盗難されたという話も聞いた。そのため、レンタカーを利用する際には、バッグはトランクにしまうか、自身で持って行くようにした。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮及び学校内の WIFI を利用した。

- (1) 寮内: オープンスペースや食堂では基本 WIFI 接続で困ることはないが、部屋内ではたまに接続不良となる場合があった。
 (2) 学校内: 最初 Visitor 向けの WIFI を利用していたが、たまに接続不良になる場合があったため、eduroam(大学で WIFI を利用できるサービス)に登録し、eduroam の WIFI を利用した。eduroam では基本 WIFI 接続で困ることはない。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか? (例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現金で約\$400 を持参した。併せて、クレジットカードも利用していた。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

Amazon が使えることから、現地で調達できないものは殆どないと考えられる。

以下では、自身が持って行った主なものと現地で購入することになったもの、あるとよいと思ったものを記載する。

- (1) 持参品: スマートフォン、パソコン、USB、電子辞書、充電器、コンタクトレンズ、眼鏡、衣服、薬、シャンプー、髭剃り、爪切り、奇術用具、財布、歯ブラシ、歯磨き粉、タオル、筆記用具。
 (2) 購入品: 毛布、枕、シーツ(International House では持参しなくてはならない)、SIM カード入れ替えのためのピン、長袖(パークレーは寒かったため購入)、シャンプー及び歯磨き粉(持参品を使い切ったため購入)、塵取り及びゴミ袋(部屋を掃除するために購入)。
 (3) あるとよいと思ったもの: スポーツウェア(無料で学校内のジムを利用できる)、水着(無料で学校内のプールが利用できる)。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

渡航前にカリフォルニア大学パークレー校が指定する送金方法の一つであるフライワイヤーを通じて、銀行間送金で支払った。支払時期は 2 月 14 日。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
11 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 0 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった:MBA 293C(Curricular Practical Training Internship)の授業はカリフォルニア大学バークレー校のMBA 生徒限定であり、受講できなかった。そのため、履修登録後、返金手続きを行った。	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Special Topics in Sociology The Happy Class	社会学特論 幸福に関する授業
科目設置学部・研究科	社会学部
履修期間	2023 年 5 月 22 日～2023 年 6 月 30 日
単位数	2 単位
本学での単位認定状況	0単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 120 分が 2 回
担当教授	Szonja Ivester
授業内容	<p>米国は世界最大の国内総生産を誇る一方、幸福度ランキングでは 10 位以内にすらランクインできていない。つまり、国の経済的豊かさや国民の幸せは別物なのだ。では、幸せとは何か、どうやって幸せを測ればよいか、そしてどうすれば幸せの質を改善できるのか。本授業は論文やケーススタディ等を通じて、幸福についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>(1)幸福の定義 短期、中期、長期の幸せがある。おいしいものを食べるとき等の快楽(短期的幸福)、困難にぶち当たりながら目標を果たしたときの達成感(中期的幸福)、人生の目的や意味の発見(長期的幸福)。各幸福の特徴について理解を深める。</p> <p>(2)幸福の測定 一人当たり国内総生産や幸せに関するアンケート等、幸福の測定方法について学ぶ。</p> <p>(3)幸福の改善要因 お金、健康、自由、恋愛等、人々の幸福の決定要因を考察すると共に各要素の特徴を学ぶ。</p>
試験・課題など	<p>(1)期末・中間試験なし。毎週、オンラインで小テストがある。出題形式は多肢選択方式 5 問。提出期限内であれば、何回でも小テストを受検できる。問題内容は固定されている。</p> <p>(2)論文や映画等の宿題あり。論文は 20 ページ相当のものを読むこともある。また映画は 2 時間程度のものを見ることもある。</p>
感想を自由記入	<p>■この授業を受講するメリットは以下 2 点である。</p> <p>(1)海外の友達が作りやすい点。 本授業は、週 2 日、レクチャー日とグループワーク日に分かれる。グループワークでは、6 人程度のグループを作り、ディスカッションを行う。そのため、一緒にグループになった学生と仲良くなりやすい。例えば、授業後、同じグループになった米国の学生や中国の学生と、一緒に昼食や図書館に行く機会があった。また、その中国の学生から誕生日会に誘ってもらえる等、授業以外でも交流を持つことができた。</p> <p>(2)印象的な実験結果を学べる点。 幸福を題材としているため、親近感の湧くテーマが多く、実験結果に面白味がある。例えば、恋愛と幸福の関係である。恋愛には熱愛(欲望を重視する恋愛)と友愛(互いを思いやる恋愛)があり、最初の 6 か月間は熱愛による幸福が友愛による幸福を上回り続けるが、それ以降、60 年熱愛の幸福が友愛の幸福を上回ることはないといった研究結果は印象的であった。また、女性は結婚すると幸せを感じるが子供を産むと不幸になる(※子育てのために自由時間が減少するため)といった研究結果等、自身の直観に反する実験結果を学べたことで視野が広がった。</p>

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
The Social, Political, and Ethical Environment of Business		ビジネスを取り巻く社会的、政治的、倫理的環境	
科目設置学部・研究科	経営学部		
履修期間	2023年5月22日~2023年6月30日		
単位数	3		
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に150分が3回		
担当教授	Alan Ross		
授業内容	<p>社会・政治・倫理の各視点から、企業のビジネスに対する取り組みが正当化できるものか評価する力を養うことを目的とする。</p> <p>(1)社会 マネタリストと企業の社会的責任の対比:企業の責任とは収益の最大化か、それとも社会貢献かについて、フリードマン(経済学者)とハース(実業家)の両主張を考察する。</p> <p>(2)政治 規制と規制緩和の対比:規制は企業の成長を阻害する一方、規制緩和は独占企業の登場等の問題を生む。近年企業の政治介入(ロビー活動等)に注目が集まる中、経済理論や航空会社の事例等を基に、両者の長所短所を考察する。</p> <p>(3)倫理 功利主義、義務論、分配的正義の比較:企業が意思決定をする際、最大多数最大幸福、善行、公平性のどれを追求すればよいかについて、各理論を基に考察する。</p>		
試験・課題など	<p>(1)試験は中間試験、期末試験の二つ。 ある企業の取り組み事例が出題され、社会・政治・倫理の各視点から相反する理論を基に、その取り組みが正当化されるか論じる。出題形式はエッセイ、文字数制限なし。</p> <p>(2)課題はリサーチペーパー及びプレゼンテーション。 自身が関心を持ったテーマ(ビジネス)について、各視点からそのビジネスが正当化されるかを論じる。リサーチペーパーの枚数は8枚。プレゼンテーションの時間は10分。</p>		
感想を自由記入	<p>■この授業を受講するメリットは以下2点である。</p> <p>(1)ビジネスの持続可能性に関する考察力の向上。 近年様々なビジネスが生まれており、中には麻薬販売や同性婚ビジネス、代理出産ビジネス等、ある国では合法だが、ある国では違法であるグレーゾーンビジネスも多い。この授業では相反する社会的・政治的・倫理的理論を基に、これらのビジネスが社会に受け入れられるか考察する。そのため、各ビジネスが今後法規制されるかそれとも規制緩和されるか等、長期的にそのビジネスが持続しうるか判断する力を磨くことができた。</p> <p>(2)英語の三技能(読む力、書く力、話す力)の向上。 リサーチペーパーやプレゼンテーションを通じて、英語での資料作成力や説明力を磨いた。 例えば、リサーチペーパーでは、日本では合法だが、米国ではネバダ州を除き違法となっている「売春ビジネス」を取り上げた。米国の法律や英語の論文を読み、本ビジネスは功利主義上、売春婦・顧客にとって便益を生むため倫理的であると考えられる一方、義務論上、人身売買と見なせるため非倫理的であるという趣旨の英字論文を作成した。英語で資料を探し、要点をまとめる力は、日本で論文を書く上でも役立つ。この経験を通じて、日本の文献だけでなく、海外の文献も利用して自身の論文を書くことができるようになったと考えている。次に、プレゼンテーションでは、パワーポイント資料の作成において、英語は日本語と異なり、文章を表現するのに多くの文字を必要とすることを痛感した。例えば、増加とincreaseでは必要とする文字面積に差があり、英語で資料を作成する際、文字で表現すると余白が足りず、工夫が必要であった。加えて、発表では自身の発音の悪さを痛感した。今まで、発音について考えたことがなく、間違った発音で覚えている単語も多いことに気づいた、そのため、この経験を通じて、自身の発音力を向上させたいと思った。英語で論文やプレゼン資料を作成する機会は初めてであり、日本語で作成するよりも10倍近く時間を要したが、英語ならではの資料作成上の課題や今後の自身の英語力をブラッシュアップさせたい点について、発見することができたことは有益であった。</p> <p>■この授業の懸念点は以下1点である。 電子機器の持ち込み禁止。教授から授業中のパソコン等の使用を禁止される。自身のリスニング力のみで授業に臨まなければならない、授業中、発言や質問をすることが非常に難しかった。</p>		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Data Tools for Sustainability and the Environment	持続可能性及び環境のためのデータツール
科目設置学部・研究科	環境経済政策学部
履修期間	2023年7月3日～2023年8月11日
単位数	3
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が4回
担当教授	Xiangyi Meng
授業内容	<p>環境及び経済に関するデータを活用し、Python(プログラミング言語)を通じて経済活動が環境に与える影響を分析することを目的とする。</p> <p>(1)Pythonの基礎 四則演算、データ読み込み、前処理、データフレームの加工、関数、回帰分析、図表作成等を学ぶ。Google Colab を利用するため、Python をインストールする必要はない。</p> <p>(2)各環境データと経済データの関係性 CO2 排出量と環境指数(自然災害数等)の関係性や、一人あたり国内総生産と発電所の関係性等をデータを使ってグラフ化し、各種統計手法を通じて、分析する。</p>
試験・課題など	<p>(1)試験は中間試験のみ。教室内で自身のパソコンを使い、指定されたデータ URL を Python 上で読み込み、1.欠損値処理、2.国内総生産の大きい10か国を抽出、3.CO2 排出量と国内総生産の散布図を作成し、線形回帰等を行う。その他、米国の特定の州について、緯度経度情報に基づき農村を打点した州地図を作成。試験中は授業資料や Google 等の閲覧が可能。</p> <p>(2)課題は毎週のコード記述。指定された内容(中古車価格と使用年数の関係性等)に基づき、コードを記述する。全5回(内最終課題含む)。第1回を除き、10時間程度要する難しさ。</p>
感想を自由記入	<p>■この授業を受講するメリットは以下3点である。</p> <p>(1)プログラミングスキルの向上。 生データの取得からデータ加工、分析、グラフ化まで一連の流れを経験できるため、Python への理解が深まった。私自身、過去に Python を3か月程度勉強し、他の言語(Java や Swift)を学んだこともあり、プログラミングの勉強は今回で4回目であった。今までは、整備されたデータが与えられており、それを統計処理またはグラフ化させるだけでよかったが、本授業では整備されていない実際のデータを使って分析を行うため、前処理の技術を身に付けることができた。</p> <p>(2)シミュレーションスキルの向上。 中古車価格と使用年数の関係性を分析する課題では、使用年数から中古車価格を推計する方法を学んだ。具体的には、実際の中古車サイトから中古車価格、使用年数、使用距離を15件程度取得し、そのデータを活用して使用年数と使用距離の線形回帰及び、中古車価格と使用年数、使用距離の線形回帰を行い、使用年数を基に使用距離を推計する数式、使用年数と使用距離を基に中古車価格を推計する数式を作成した。この線形回帰では、誤差項(正規分布に従うランダムな変数)を考慮して、数式を作成する。今まで、推計を行う際、説明変数と被説明変数だけで数式を作成していたが、誤差項を組み込むことで、より実データに近い推計ができるようになった。この経験を通じて、自身のシミュレーション手法の幅が広がった。</p> <p>(3)データに基づく環境及び経済に対する理解の向上。 本授業では、米国環境保護庁等のデータを活用し、グラフ化等を通じて環境問題を視覚化するため、環境問題についてイメージが付きやすかった。例えば、他の授業等で「米国は経済的には豊かである一方、環境問題や社会問題を多く抱えていること」を学んだが、環境問題については実感が湧きづらかった。しかし、この授業を通じて、米国の CO2 排出量が他の国と比べて大きいことや、それが気温上昇や自然災害の増加を招いていることを定量的に理解することができた。特に米国の州別の分析では、カルフォルニア州は米国で3番目に呼吸器への危険性が高く、これは自動車等の影響で空気が汚染されているためであることを学んだ。それ以降、サンフランシスコ等を観光した際は、多くの人が自動車で移動していることや、スモッグ等で空気が汚染されていることに気が付くようになった。社会問題(ホームレス問題等)とは異なり、環境問題は毎日実感の湧くものではないが、データを見ることで環境への問題意識が高まった。</p> <p>■この授業の懸念点は以下1点である。 Python の要求水準が高く、課題が難しい点。pandas(基礎的な表作成手法)や matplotlib(基礎的なグラフ化手法)だけでなく、geopandas(応用的表作成及びグラフ化手法)等を使う。基礎的な Python スキルしか習得していなかったため、授業内容を理解するのに時間を要し、また課題も1日かけて取り組むこととなった。</p>

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Investing for Sustainability	持続可能性のための投資戦略論
科目設置学部・研究科	経営学部
履修期間	2023年7月3日～2023年8月11日
単位数	3
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に150分が3回
担当教授	Anne Simpson
授業内容	<p>国際連合が公表する持続可能な開発目標を実現するために必要となる投資戦略を学ぶことを目的とする。</p> <p>(1)持続可能性の定義 国際連合が公表する持続可能な開発目標を基に、社会でどのようなものを解決する必要があるか(貧困や気候変動等)を学ぶ。</p> <p>(2)企業価値評価 従来、企業の価値は金融資本リターンのみが考慮されていたが、それに加え、人的資本リターンや自然資本リターンといった社会的リターンも考慮して、企業価値を評価する。</p> <p>(3)データ開示方法 金融資本リターンであれば、財務諸表を基に測定することが可能である。一方、社会的リターンは、データ開示の制度が整っていないため測定が難しい。社会的リターンを測定するために必要となるデータやそのデータ開示方法について考察する。</p>
試験・課題など	<p>(1)試験なし。</p> <p>(2)課題は毎週の振り返りペーパーと最終プレゼンテーションの2つ。 振り返りペーパーでは、授業内容の振り返りをA4用紙1枚程度で作成・提出。 最終プレゼンテーションでは、6人1組となり、持続可能な開発目標を実現するための新規ビジネスプランを考案・発表する。本プレゼンテーションでは、1.持続可能な開発目標17つの内、ターゲットとする目標1つを選択、2.その目標を実現するための障壁を特定、3.その障壁を解決するビジネスプランを考案、4.そのビジネスを実現するために必要となる資金額を推計の上、資金調達方法を検討、5.このビジネスプランで得られるリターン(金融資本リターン、人的資本リターン、自然資本リターン)の測定を行う。</p>
感想を自由記入	<p>■この授業を受講するメリットは異文化交流である。</p> <p>本授業では、グループワークを通じて、国籍等のバックグラウンドが違う学生との合意形成の仕方について学ぶことができた。例えば、私は台湾や中国の学生とグループを組み、貧困を理由に大学に進学できない子供たちのために低金利で教育ローンを提供するというビジネスを検討した。検討の中で、ローンの貸出金額をいくらにするかについて、私と中国の学生との間で意見対立が起きた。その学生の主張は、3年間80%の支給とし、大学生がインターンに行く1年はローンを支給しないというものだった。一方、私の主張は、ターゲットが貧困家庭の学生であり、貧困家庭の年間所得では、学費の20%を支給することは難しい点、また、インターンの平均年間給与も一年間の学費を賄えるほど大きくない点を踏まえ、4年間100%の支給にするというものだった。互いの意見が一向にまとまらず、提出期限も迫っていることから、私たちはビジネスプランの検討は後回しにし、目標の障壁や資金調達計画に関する資料を先に作ることにした。それが功をなし、プレゼン資料を一緒に作る中で、私は何故その学生が全額支給に否定的であったのかが分かった。その学生が作った資金調達計画の中には、ローン費用だけでなく、このビジネスの運営費用も記載されており、その学生は我々が運営費用を払えず倒産するというリスクを回避するために、支給額を最低限にしたいということが分かった。そして、その学生も、統計データ等を記載した私の資料を見て、大学生の負担額が大きいと、その大学生が債務不履行になり、我々が貸出資金を回収できないリスクがあるということを認識した。最終的には、互いの懸念点を理解した上で、インターンによる大学生の収入を踏まえ、3年間100%支給、インターンを行う年は40%支給(全学費の80%を支給)するという方法で合意形成を行うことができた。そして、プレゼン当日はその学生が私にとって一番頼りになる学生となった。グループ全員が第二言語で意思疎通する場合、自分が英語を正しく話せなければ、相手に意見を伝えることは難しい。また自分のリスニング力が高くなければ、相手の主張を理解することも難しい。そのため、足りない英語力を補う上では、図や文字を用いることが意思疎通に役立つことを学んだ。</p>

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)
<input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input checked="" type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など
-
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
-
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
留学経験を通して、就職に関する意識として変わった点としては、一度海外で就職してみたいという点である。当初、英語ができないと海外で仕事をするのは難しいだろうと考えていたが、ビジネスプランの立案というグループワークを通じて、文字や図表を使いながら、話せば、他者とコミュニケーションを取れることが分かった。そのため、今後、海外で働く方法等も検討したい。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
-
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
留学期間中も IELTS の勉強の一環として、英文日記を毎日書いた。ieltsbro で出題されるスピーキングのパート 2(スピーチ)の問題を参考に、日々の出来事について、いつ、どこで、何が、何故起きたのかを纏めた。知らない単語やことわざを文章中に組み込み、DeepL(翻訳アプリ)や Grammarly(文法確認アプリ)を活用して、自身の文法ミスの癖を確認しながら、英語力向上に努めた。
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。
-

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	-
	4月～7月	-
	8月～9月	海外トップユニバーシティ留学のプログラムを知り、オンライン説明会に参加。
	10月～12月	10月選考に応募。応募書類を作成・提出。12月学内選考通知受領。
留学開始年	1月～3月	2月語学学校通学、出願、予防接種。3月ビザ申請・取得、滞在先の確保。
	4月～7月	4月航空券購入。5月渡米。6月中間試験、期末試験。7月中間試験。
	8月～9月	8月最終課題及び最終研究発表、帰国。
	10月～12月	-
留学/帰国年	1月～3月	帰国年と留学年が同一であるため、同上。
	4月～7月	帰国年と留学年が同一であるため、同上。
	8月～9月	帰国年と留学年が同一であるため、同上。
	10月～12月	-

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

■ 留学先を選んだ理由

私がカルフォルニア大学バークレー校を選んだ理由は主に以下 2 点である。

(1) 自分の力が世界に通用するか確認したため。

明治大学に入学する前から、海外の大学院に関心があり、明治大学卒業後も海外の大学院に進学したいと考えていた。そうした中、明治大学ではトップユニバーシティ留学というプログラムを提供していることを知った。特に、カリフォルニア大学バークレー校は世界大学ランキング 8 位(2022 年 10 月時点)であるにもかかわらず、私の英語力でも募集要件を満たせることが分かった。そのため、仮に英語力が低くても、海外の大学の授業についていけるのか、また世界トップクラスの大学で自分の力は通用するのかわを確認したく、この大学を選んだ。

(2) 自分の研究分野への知見を深めるため。

私は明治大学で企業価値評価や意思決定会計という分野を勉強している。日本では、企業や新規ビジネスプロジェクトを評価する際、収益性といった財務情報を基に評価を行うことが主流だが、明治大学会計専門職研究科の授業を通じて、国際的には、財務情報だけでなく、社会的貢献度を示す非財務情報で企業等を評価する方法が取り込まれ始めているということを学んだ。この分野はまだ日本では普及しておらず、私が所属する研究科でもこの分野を専門に扱った授業がなかったため、先行する海外でこの分野について知見を高めたいと考えた。特に、カリフォルニア大学バークレー校では、ビジネスの社会的価値をテーマとする授業も多く、この大学で勉強したいと考えた。

■ 留学生生活全般

一般的に大学生は、4 つのカテゴリー(勉強、サークル、バイト、恋愛)の中から注力するものを選び、組み合わせ、学生生活を送ることが多いと言われている。この考えに沿えば、私の留学生生活は、勉強 8 割、アクティビティ(サークルに相当)2 割であった。本項では、注力した 2 つのカテゴリーについて、内容を記載する。

(1) 勉強

まず、自身の英語力では、3 か月間中、教授が言っていることを理解できた日はなかった。そのため、テクノロジーを駆使し、復習に重点を置き、授業内容を理解するよう努めた。具体的には、授業時間中は Otter(英語の会話内容を文字起こしできるアプリ)と DeepL(マルチ言語翻訳アプリ)を活用し、自分の英語力の不足部分を補った。教授の発言内容を Otter 上で文字化し、リスニング力が乏しい私はリーディング力を通じて、授業内容の理解に努めた。また、分からない単語等がある場合、Otter で出力された英文を DeepL に入力し、疑似的な自動翻訳機を作ることで対処した。しかしながら、この方法を使っても教授の説明スピードが速すぎるため、授業内容全てを理解することはできなかった。そこで、授業後は毎日図書館に行き、Otter のレコード結果(2.0~2.5 時間分)を word で出力し、それを DeepL に入力して、日本語で授業内容を一度理解するよう努めた。そして、翻訳結果を読む中で、重要だと思う部分については、該当する英語部分にラインマーカーを引き、最後、その英語部分を読んで、ノートに書き留め、授業内容を英語で理解するよう努めた。この復習方法は一回あたり 7 時間(授業時間除く)を要したが、自身の関心分野について情報を整理し、知見を深めることができた。次回留学する際には、自身のリスニング力をブラッシュアップしたい。

(2) アクティビティ

International House や友達が開催するイベントについては、必ず参加するようにしていた。理由としては、英語力向上の一環として留学期間中、毎日、英語で日記を書く決めており、その題材を探すために、色々なアクティビティに参加していた。例えば、花火大会やナイトパーティーといった大きなイベントに限らず、映画鑑賞会や美術館観光といった参加者が少ないイベントにも参加した。また開催されるイベントの中には、自身が関心のないものも多かったが、これまで経験したことがないアクティビティ(縫物やお絵描き等)にも参加することで、自分の視野を広げることができたと考えている。毎日勉強だけでなく、イベント等の情報にアンテナを張ることで、充実した留学生活を送ることができた。

■ 留学を志す後輩学生へのアドバイス

留学を志す学生に伝えたいこととしては、留学はリスクは高いけど、リターンも大きいという点である

留学を選択する代わりに、その期間中、他の人が当たり前のように行っていることを自分ではできなくなるため、心配になることがあるかもしれない。しかし、その決断を行ったことで、他の人では経験できないような出会いや出来事に巡り合うことができる点を忘れてはならない。今回、本留学を決定したことにより、私は卒業論文の執筆や前期授業の受講をあきらめる必要があった。しかし、この留学で出会った人たちが苦難・学びというのは、他の学生では経験できない自分だけの特別な思い出となったと考えている。そして、この経験を活かすことで、他の人ではできないようなことを自分ではできるようになるだろう。長い人生なので、人生を振り返った際に、忘れることのできない思い出をいくつか作れるかという観点で選択をし、その選択でしか得られないことに力を注ぐとよいと考えている。